

Compass

CONTENTS

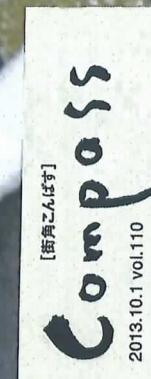
特集 ししば・しば猫物語。

- 12 菊水通信 大人の嗜み
- 13 Spiral Life ~終わらないシバタへの旅~
- 第2回 洋子の想い出
- 14 手しごと物語。
金工
- 15 今月のとびっきり!
七葉松味噌
- 16 れこめん道
- 17 寺日和 ~長徳寺の記憶~
第26回 フランス料理と堺部安兵衛そばまつり
- 21 塩津潟と都岐沙羅柵のロマン
- 23 なべちゃんの健康通信
- 25 nikotan's voice
- 29 街角いいいばへ~だい
- 29 クーポンコーナー
- 30 プレゼント



堺部安兵衛 新発田に蘇る。

Free Magazine
October 2013
Vol.120



[街角こまばす]

わん
ししば犬・しば猫物語。

撮影場所 / 長徳寺
監修 / 田代洋子
STAFF
発行・編集長 / 井村 純子
表紙・特集監修 / 田代 悠一(寺田デザイン事務所)
デザイナー / A.I.

塩津潟と都岐沙羅柵のロマン

伊藤 國夫

△第5回 都岐沙羅柵と塩津潟の関係

古代の新潟県には、津足柵（647年）、鎌舟柵（648年）と都岐沙羅柵（653年）の三つの柵が大和政権によって廻置されました。最も新しく「都岐沙羅柵」は、新発田市から胎内市にまたがる塩津潟周辺に存在したことと考えられます。『倭名類聚抄』（京都大学文理学部・国語学園国文学研究室編）に津足舟柵舟2柵の間に青明天皇4年（658年）都岐沙羅柵有るとの記述がみられるところから、津足柵（比定地：新潟市）と鎌舟柵（比定地：村上市）の間に立地する都岐沙羅柵（比定地：胎内市）と考えられるわけです。

『康平新絵図』（1060年）には、塩津潟が河川舟運の要衝地として描かれています。「日本書紀」に記された阿倍比羅夫が率いた180余艘の大船団を繋留した港であつたと考えられます。

また、塩津潟の北東側には少なくとも15ヶ所以上の古墳時代の遺跡が集中して発見されており、遺跡の密度や多量の炭化米・穀の出土から一定の人口数が推定され、水稻栽培の可能

性が考えられています。大勢の人々を養う食料などの物資の供給が可能でした。塩津潟の東端には、龍ほづき山古墳やひとかこ山（城の山）古墳が築かれています。発掘調査が行われたひとつが山古墳からは銅鏡やじスイの勾玉・太刀がフス玉・铁斧等々が出土し、大和政権との關係が9世紀前半まで遡れることが立証されています。

塩津潟周辺の古墳時代の遺跡に隣接して祀られる3社の弥彦神社（母夜日子）、胎内市篠地・大槻（ひじか）山古墳（古墳）・新発田市十五公新古四王神社・田沢治川村の願文山も都岐沙羅柵と繋がりをもつて考えられます。

東京大学教授（後の國學院大學学長）芳賀寅次博士が作詞をした「篠地村歌」。

やまと高きさくらの昔すえたる
歌を 固めぬで年々に 常ニモ
行け桑地村——

じあり「日から」は、「都岐沙羅柵」のりげんに考えられます。

詳細は、「年報 新発田学」（敬和学園大学第4号（平成25年3月発行）掲載の「大和政権の城柵「都岐沙羅柵」の探求」を参考ください。）



伊藤國夫
・塩津潟教育研究会所長
・敬和学園大学新発田学
・日本文部省博士